

第451回鉄鋼流通問題懇談会

2020年1月28日 (火) 14:30

茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

議 題

1. 配布資料説明 (全鉄連)

2. 全鉄連情勢報告

(1) 地区の状況

○東京、大阪、富山、新潟地区概況報告

(2) その他地区の概況

○鉄流懇1月例会で発表の各地区業況アンケート結果

(3) 総括：阪上全鉄連会長

3. 意見交換

4. 経済産業省挨拶

5. 鉄流懇会長挨拶

6. その他

○次回以降会議予定

2020年4月22日 (水) 14:30～

於：茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2020年1月）

発表項目	鋼管	薄板	住友商事グローバルメタルズ	厚板	阪興興業	日鉄物産
1. 需給動向(見込)	<p>鋼管</p> <p>メタルワン</p> <p>(店売り分野) 建築案件が減少、特に北関東地区では中フアープにも空きが出てきており、特約店の荷動きは低調。市況も、丸管はなんとか売れているものの、コラム等や鋼管等は一部値下がり始めている。鋼管杭分野では、中が建築需要の低迷、コンクリート杭の盛り返しにより出荷が低迷しており、鋼管杭メーカーからの値下げ要請が大きくなってきている。</p> <p>価格動向としては、高戸が値上げを唱えたものの、市況には浸透しておらず、浴協メーカーのボトムは25円/kgは浸透済みではあるが、顧客からの値下げ要請が大きくなってきている。</p>	<p>2019年11月末の薄板三品在庫は、10月末比で4千トン減の432万3千トンとなり、4ヶ月連続で前月を下回ったが、前年同月比では、+4.5%と未だ高い水準であると言え。輸入鋼材入着量が再び30万トンを超えていることが背景にある。在庫内訳は、メーカー在庫が前月比5万2千2百99千トン、問屋在庫が前月比1万2千2百99千トンの増加の88万4千トン、コイルセンター在庫が前月比3万5千トン増の148万トンとなった。全国コイルセンター組合がまとめた資料によると11月のコイルセンター薄板三品在庫率は、1.65ヶ月と10月末より0.57ポイント増加している。全社向けに建材需要も人材不足などに起因し、今一つ伸び悩んで、国内自動車販売台数も2ヶ月連続で前年同月比マイナスとなっている。店売市場でも流通は当用買いに徹しており、需要の停滞感も継続している。</p>	<p>11月の自動車国内販売(輸入車除く)は、35万9千9百台(前年同月比12.9%減)と2ヶ月連続で前年対比マイナスとなっている。乗用車は29万1千台(同11.8%減)、トラックは6万8千台(同17.2%)となった。11月の民生用電気機器の国内出荷金額は、1,722億円(前年同月比4.7%減)と2ヶ月連続のマイナスとなった。製品別の国内出荷金額を見ると電気冷蔵庫は277億円(前年比9.0%増)と3ヶ月連続のプラス、電気洗濯機は254億円(同4.6%増)と17ヶ月連続のプラスとなったが、ルームエアコンは384億円(同16.3%減)と2ヶ月連続のマイナスとなった。エアコンの大幅なマイナスと一部品目では消費税増税の反動もあり、民生用電気機器全体では前年同月を下回っている。10月の新設住宅着工戸数は、持ち家が前年同月比で7.3%減(4ヶ月連続のマイナス)、貸家が17.5%減(15ヶ月連続のマイナス)、分譲も同10.3%と6ヶ月ぶりのマイナスとなった。非住宅建築着工床面積は、商業用(同9.7%減)、事務所(同3.3%減)、店舗(同11.0%減)、倉庫(同13.1%減)と全体で同9.7%減となった。</p>	<p>11月の普通鋼種輸出入量は42万1千トン(前年同月比10.0%増)と2ヶ月ぶりの増加となった。主要品種別では、熱延広幅鋼帯が13万1千トン(前年同月比19.2%増)、亜鉛メッキ鋼帯が8万6千トン(同13.3%増)、線材が3万4千トン(同約2.8倍)とそれぞれ2ヶ月ぶりの増加となった。一方、冷延広幅鋼帯は8万5千トン(同10.4%減)と2ヶ月連続の減少となった。一方、熱延広幅鋼帯が85万6千トン(同8.5%増)と8ヶ月連続の増加となった。</p> <p>10/29に中国鋼鉄工業協会(CISA)も原材料価格および環境保護コスト、物流コストなど、鉄鋼メーカーのコストが大幅に上昇していること等、鉄鋼業界の課題および今後の重点政策についてプレス発表している。更に11/22に報道された宝武鋼鉄(宝山と武鋼の合併会社)による首鋼式15%取得など、は、中国政府としても国有企業の再編を押し進めて過剰設備の削減に向け動きを掛けるという意思の表れとも見える。なお、12月からはASEANを中心とした市況は反転している。</p>	<p>11月末の全国厚板在庫は442千トンで前月比4,210トン減。受け入れ量が出荷量を下回った結果、3か月連続の在庫減となった。在庫率は全国ベースでは前月比19.2ポイント上がり285.5%と、適正在庫率と言われている200%を依然大きく上回っている。</p> <p>オリビック開幕を前にして特に建築関連の案件減により建築需要の停滞感も継続している。建機も水害の影響により落ち、市中材の荷動きはかきなり落ち込んでいる。よって店売り切板価格も弱含みとなっている。</p>	<p>棒鋼・形鋼</p> <p>日鉄物産</p> <p>棒鋼:国土交通省発表の11月分の建築着工統計調査報告によると、新設住宅着工戸数は79千戸で前年同月比17.7%減少と5ヶ月連続の減少。在京の商社が任意で調査を行っている関東地区の商社から、鉄骨メーカーへの発注額が11月・12月と増加傾向をみせるも、足元、セネコンからの新規発注はまばらであり市況上振に繋がる勢いには乏しい。</p> <p>形鋼:流通指標の1つであるときわめ発表表において、1月度は、8か月ぶりに在庫が増加に転じた。対前月比で在庫は微増であったが、出荷量が大きく減少している。若幹要因に加え、五輪を前に控えた物件の端燃期であることが原因で足元荷動きに停滞感出しており、しばらくはこの状況が続くものと考えられている。</p>
2. 需要産業動向	<p>(建築・土木) 11月の新設住宅着工戸数は、前年同月比12.7%減の7万3,523戸と、5カ月の連続の前年割れ。貸家の減少が大きく響いたほか、持ち家や分譲住宅も減少した。</p> <p>(自動車) 11月の日本メーカーの国内生産台数は前年同月比9.1%減の76万7,453台。</p> <p>(建機) 11月の建設機械出荷金額は、内需は20.8%減少の77.3億円、外需は42.3%減少の8.65億円、総合計では33.8%減少の1,639億円と、総合計では2ヶ月連続の減少。</p> <p>(造船) 11月の輸出船契約(受注)実績は、前年同月比52%減の68万総トンだった。</p>	<p>造船の12月未輸出船手持ち工事総量は1,979万GTで、11月比0.05%増と、3か月連続の減少が記録となった。2019年度4-9月分の輸出船着工総量は9,496万GTで、前年同月比と41万GT減少。これを上回ると2019年9月分の輸出船着工総量は前年同月比15%減の2,172万GTと、387万GT減少。輸出船の11月の出荷金額は773億(前年同月比30.5%減、外需は805億(同12.3%減)、合計1,639億)と前年同月比33.8%減となった。内需・外需共に前年同月比33.8%減となった。造船機械の11月の出荷金額は3,033億(前年同月比12.3%増)、外需が806億(同72.8%減)、合計3,829億円(前年同月比32.5%減、ボイラ・原動機、船舶機械)に達し、建設は足元低調、首都圏再開発案件もあるものの2020年度後半からの動きとなるので、当分は低調に推移すると思われる。</p>	<p>11月の輸入通関実績は前月比7.4千トン減の37千トン。中国からの入着が2千トン増、韓国からの入着が10千トン減となった。</p> <p>11月の輸出船積実績は前月比40千トン減の216千トン。中国向けで12千トン増、韓国向けで28千トン減となった。</p>	<p>11月の普通鋼種輸出入量は42万1千トン(前年同月比10.0%増)と2ヶ月ぶりの増加となった。主要品種別では、熱延広幅鋼帯が13万1千トン(前年同月比19.2%増)、亜鉛メッキ鋼帯が8万6千トン(同13.3%増)、線材が3万4千トン(同約2.8倍)とそれぞれ2ヶ月ぶりの増加となった。一方、冷延広幅鋼帯は8万5千トン(同10.4%減)と2ヶ月連続の減少となった。一方、熱延広幅鋼帯が85万6千トン(同8.5%増)と8ヶ月連続の増加となった。</p> <p>10/29に中国鋼鉄工業協会(CISA)も原材料価格および環境保護コスト、物流コストなど、鉄鋼メーカーのコストが大幅に上昇していること等、鉄鋼業界の課題および今後の重点政策についてプレス発表している。更に11/22に報道された宝武鋼鉄(宝山と武鋼の合併会社)による首鋼式15%取得などは、中国政府としても国有企業の再編を押し進めて過剰設備の削減に向け動きを掛けるという意思の表れとも見える。なお、12月からはASEANを中心とした市況は反転している。</p>	<p>11月の普通鋼種輸出入量は42万1千トン(前年同月比10.0%増)と2ヶ月ぶりの増加となった。主要品種別では、熱延広幅鋼帯が13万1千トン(前年同月比19.2%増)、亜鉛メッキ鋼帯が8万6千トン(同13.3%増)、線材が3万4千トン(同約2.8倍)とそれぞれ2ヶ月ぶりの増加となった。一方、冷延広幅鋼帯は8万5千トン(同10.4%減)と2ヶ月連続の減少となった。一方、熱延広幅鋼帯が85万6千トン(同8.5%増)と8ヶ月連続の増加となった。</p>	<p>形鋼輸出:2019年11月の日形鋼の輸出量は7千トンで前月比18.1%増、前年同月比18%減となった。2019年8月以降、前月比比ベースで4ヶ月連続減少が続いた。2019年11月の普通鋼輸出量は205千トンで前年同月比6%減となった。</p> <p>その他品種の増減としてはH型鋼の2019年11月累計輸出量は184千トンで前年同月比23千トン増(14%増)となりH型钢の形鋼輸入:2019年11月の日形鋼の輸入量は7千トンで前月比2%増、前年同月比18%減。2019年1-11月の累計輸入量は1,891千トンで前年同月比2%減となった。</p> <p>その他品種の増減としてはI形鋼の2019年1-11月累計輸入量は9千トンで前年同月比(42%減)が目立った。</p>
3. 輸出入動向	<p>2019年11月度鋼管輸出入量</p> <p>継目無鋼管: 3万2,809トン (前月比+7.2%)</p> <p>溶接鋼管: 3万3,483トン (前月比+2.6%)</p> <p>2019年11月度鋼管輸入量</p> <p>継目無鋼管: 1,403トン (前月比+10.2%)</p> <p>溶接鋼管: 1万8,450トン (前月比+37.9%)</p>	<p>11月の普通鋼種輸出入量は42万1千トン(前年同月比10.0%増)と2ヶ月ぶりの増加となった。主要品種別では、熱延広幅鋼帯が13万1千トン(前年同月比19.2%増)、亜鉛メッキ鋼帯が8万6千トン(同13.3%増)、線材が3万4千トン(同約2.8倍)とそれぞれ2ヶ月ぶりの増加となった。一方、冷延広幅鋼帯は8万5千トン(同10.4%減)と2ヶ月連続の減少となった。一方、熱延広幅鋼帯が85万6千トン(同8.5%増)と8ヶ月連続の増加となった。</p>	<p>11月の普通鋼種輸出入量は42万1千トン(前年同月比10.0%増)と2ヶ月ぶりの増加となった。主要品種別では、熱延広幅鋼帯が13万1千トン(前年同月比19.2%増)、亜鉛メッキ鋼帯が8万6千トン(同13.3%増)、線材が3万4千トン(同約2.8倍)とそれぞれ2ヶ月ぶりの増加となった。一方、冷延広幅鋼帯は8万5千トン(同10.4%減)と2ヶ月連続の減少となった。一方、熱延広幅鋼帯が85万6千トン(同8.5%増)と8ヶ月連続の増加となった。</p>	<p>中国ミルは減産と原料高背景に薄板・厚板を積極値上げ。</p> <p>一方韓国ミルは造船向け内需に回復の兆し無く、積極的輸出対応。</p> <p>世界的にも需要が堅調な地域はほぼ見当たらず、各国ミルは数量を追い展開となっている。</p>	<p>中国国内市場は需要期に入って棒鋼・形鋼類の荷動きは低調だった前期と比較すると活発化。しかしながら、米中摩擦による内需の鈍化・供給の過剰感を拭き続けるに至っており、熱延鋼帯は大幅な値動きはあらざるものの横ばい状態を維持しており、熱延鋼帯のような価格反転には至っていない。1月以降は大方の流通高は再正月休みを前にその業務姿勢を厳格化し売却計画をシフトさせており、市場に目立った動きは見られず。米国の対中国姿勢が多少軟化したことを受け、価格反転を期待する向きも出てきている。一方、いまだ不安定さは継続すると厳しい見方を崩さない向きも少なくなく、旧正月以降も市場動向は不透明である。</p>	
4. 海外市場動向	<p><油井管> 米国の在庫が減少し漸く市況の底が見えてきた状況ながら、本格回復にはまだ時間を要する見通し。</p> <p><ラインパイプ> 中東、欧州で20年以降での需要の大型ライオンバイプロシエクトが発注され始めており、一部ミルは埋まりだしているが、未だ余力も多く引き継ぎ厳しい競争環境は続く見込み。20年中には中東、欧州大型案件が動き発注が見込まれる見込みであり2020年後半からは大径管ミルもタイトルになってくること予想される。</p>	<p>11月の普通鋼種輸出入量は42万1千トン(前年同月比10.0%増)と2ヶ月ぶりの増加となった。主要品種別では、熱延広幅鋼帯が13万1千トン(前年同月比19.2%増)、亜鉛メッキ鋼帯が8万6千トン(同13.3%増)、線材が3万4千トン(同約2.8倍)とそれぞれ2ヶ月ぶりの増加となった。一方、冷延広幅鋼帯は8万5千トン(同10.4%減)と2ヶ月連続の減少となった。一方、熱延広幅鋼帯が85万6千トン(同8.5%増)と8ヶ月連続の増加となった。</p>	<p>11月の普通鋼種輸出入量は42万1千トン(前年同月比10.0%増)と2ヶ月ぶりの増加となった。主要品種別では、熱延広幅鋼帯が13万1千トン(前年同月比19.2%増)、亜鉛メッキ鋼帯が8万6千トン(同13.3%増)、線材が3万4千トン(同約2.8倍)とそれぞれ2ヶ月ぶりの増加となった。一方、冷延広幅鋼帯は8万5千トン(同10.4%減)と2ヶ月連続の減少となった。一方、熱延広幅鋼帯が85万6千トン(同8.5%増)と8ヶ月連続の増加となった。</p>	<p>中国ミルは減産と原料高背景に薄板・厚板を積極値上げ。</p> <p>一方韓国ミルは造船向け内需に回復の兆し無く、積極的輸出対応。</p> <p>世界的にも需要が堅調な地域はほぼ見当たらず、各国ミルは数量を追い展開となっている。</p>	<p>中国国内市場は需要期に入って棒鋼・形鋼類の荷動きは低調だった前期と比較すると活発化。しかしながら、米中摩擦による内需の鈍化・供給の過剰感を拭き続けるに至っており、熱延鋼帯は大幅な値動きはあらざるものの横ばい状態を維持しており、熱延鋼帯のような価格反転には至っていない。1月以降は大方の流通高は再正月休みを前にその業務姿勢を厳格化し売却計画をシフトさせており、市場に目立った動きは見られず。米国の対中国姿勢が多少軟化したことを受け、価格反転を期待する向きも出てきている。一方、いまだ不安定さは継続すると厳しい見方を崩さない向きも少なくなく、旧正月以降も市場動向は不透明である。</p>	

発表者

発表項目

1. 需給動向（景況感）

（国内）・日本経済は海外経済減速の影響を受け、12月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で±0と前回9月調査から▲5ポイントの4期連続悪化となった。先行き（20年3月）についても同±0と横ばいであり、自動車等の輸出企業を中心に景況感停滞の見通しとなっている。

- ・19年度の設備投資計画は大企業では前年度比+6.8%（前同比+0.2%）となったが、非製造業でのプラスが寄与。
- ・家計部門については、11月の小売業販売額が全体で前年比▲2.1%、12月の自動車販売は同▲10.7%となるなど、各分野で消費増税の影響による反動減がみられる。
- ・部門別活動状況は、製造業部門は10月の自動車生産が前年同月比で2ヶ月ぶり減少、11月の機械受注実績は2ヶ月連続の前月比増加となった。建築部門では11月の全建築物建築着工床面積が3ヶ月連続の前年同月比減。

（海外）・中国では貿易摩擦影響によって製造業を中心に内外需／設備投資の低迷が続くが、政府によるインフラ投資促進策で建築分野を中心とした景気下支えが続いている。

米国や欧州経済は引き続き個人消費が堅調なものの、製造業等では依然として先行きに不確定要素が残る。

ASEAN諸国も、外需の減影響により輸出入が減速、自動車の生産販売も下振れ傾向が継続している。

<国内鉄鋼需給>

- （生産）・19年12月の粗鋼生産は778万トン（前年同月比▲8.0%）で6ヶ月連続の減少、19暦年では9928万トン（前年同月比▲4.8%）で5年連続の減少となった。
- （出荷）・11月の普通鋼国内向け出荷は372万トン（前年同月比▲11.1%）で2ヶ月連続の減少。輸出向け出荷も172万トン（同▲7.0%）と2ヶ月連続の減少。
- （在庫）・11月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は577万トン（前月比▲79万トン）、3ヶ月連続の減少。
- ・11月末の薄板3品在庫は434万トン（同+1万トン）、3ヶ月ぶりに増加。
- ・11月末の厚板シャヤー在庫は44万トン（同▲1万トン）。3ヶ月連続で減少。

2. 需要産業動向

- 〔建築〕・11月の新設住宅着工戸数は7.4万戸（前年同月比▲13%）で5ヶ月連続の減少。分譲、持家・貸家ともに減少。
- ・非住宅着工床面積は335万㎡（同▲6%）で4ヶ月連続の減少。製造業用は増も、商業・サービス業等で減。
- 〔自動車〕・12月の国内販売は31.2万台（前年同月比▲11%）で3ヶ月連続の減少。
- ・11月の完成車輸出は41.3万台（同▲4%）で2ヶ月連続の減少。北米を中心に減。
- ・10月の四輪生産は77.9万台（同▲12%）で2ヶ月ぶりの減少。
- 〔造船〕・12月の新造船受注量は92万GT（前年同月比▲30%）の受注。19年12月末の手持工事量は1,979万GT（同▲23%）と減少継続。

3. 輸出入動向

- 〔輸出〕・11月の全鉄鋼輸出は272万トン（前年同月比▲8%）で2ヶ月連続の減少。米国、アジア向けで減少。
- 〔輸入〕・11月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は50万トン（前年同月比+11%）で2ヶ月ぶりの増加。韓国は2ヶ月連続の増加、中国は2ヶ月ぶりの増加、台湾は2ヶ月ぶりの減少。

4. 海外市場動向

- ・11月の世界粗鋼生産は、日本・米国等で前年同月比減し、1億4,779万トン（前年同月比▲1%）となった。
- ・12月の中国粗鋼生産は8,427万トン（同+4%）、日当たり272万トン。19暦年は9億9,634トン（前年比+8%）。
- ・12月の中国鋼材輸出は468万トン（同▲16%）、19暦年は6,429万トン（前年比▲7%）。